

年長組、第三保育期

— 満五歳、満六歳 —

生活訓練

第一週

こゝでは、相當年長組らしい作法が要求されてゐる。それは一面には、年長組ならこの位の要求をしてもいゝといふことゝ共に、元氣旺盛の年長組といふ必要もある。その上、やがて、小學校に上るさいふ、目の前の必要もある。その内容は一々いふまでもあるまいが、扉の開閉のしかたさいふこゝに就ては、保姆先生方にもよく御注意願ひたい。何も、ドタン、ガタン、バタンばかりを論じてゐるのではない。閉ちてあつたのを、開いて出て、そのまゝあけつばなし。閉ちはしたが、半閉、八分閉さいふ類。それからもう一つ違つた方面では、開いての出入に、他の人との

ぶつかりを氣をつけるこゝ。ドスンと先方の出鼻を押し置いて、御免遊ばせでは濟まされない。少しも存じませんで言つて、さも不可抗事のやうに辯明するが、戸の向ふの見えないのは、いつだつてきまつてゐる。同時に、その見えない板戸の向ふに、人がゐるかも知れないこゝもきまつてゐる。そこを、少しも存じませんで、辯明にならない。第一、先方の出鼻位ならいゝが、その鼻が高かつたら、戸をぶつけて折つて仕舞ふ危険がある。

濡れた靴下、手袋をそのまゝ用ゐぬこゝ。之れは極めて大切なこゝである。但し、此の訓練は、子きもへか、先生へか、そこが少々あまいのやうだ。そんな場合は多分雨

の日であらう。又、季節柄、雪の日でもあらう。そんな時、この點の注意は、幼児を受けこる保姆さんの、何より第一の注意である筈である。たゞし、幼児の方にもよく訓練して置いて、保姆さんがみんなにうつかりしてゐる時でも、幼児の方から、先生、こんなに濡れたの、このまゝでは衛生上悪いのねと言はせるやうになつてゐたら、最も便利である。

第二週

前にも度々片づけたこごがあると思ふから、こごでは、あらまた散らかしたのこいふだけに止めて置く。

第三週

通園上の注意として、電車内の作法が擧げてあるが、これは社會作法訓練に屬するこごで、年長組には是非要求したいこごである。たゞ、園外のこごで、先生としては、懇

懇として申し聞かせるだけで、自ら直接訓練するこごの出来ないのが物足りないが、日本人の一大缺點が、社會的作法だこいふこごは、外國人よりも日本人としてよく氣がついてゐるこごで、之れは早くから、いゝ習慣をつけて置く必要がある。或は、誘導保育の一主題として、交通、汽車、電車、こいつたものをこり來つて、その期待効果の一つの中へ、社會作法こいふこごを置くのもいゝこごであらう。

第四週

前にも言つたこごのある通り、之れは是非つきたい習慣である。家庭よく打合はせて置いて。——幼児の生活訓練が幼稚園だけいくら心配しても、家庭に協力出来ないこご決してうまくいかないのは、敢て、手を洗はせ、うがひをさせるこごだけには限らない。

誘導保育

第一週

動物園